2025年度 第1回子ども・子育て会議議事録

2025年8月6日（水）18:30～20:15

富良野市複合庁舎 1F 会議室 CD

1. 開 会

ご案内の時間となりましたので、これより2025年度（令和7年度）第1回子ども・子育て会議を開会いたします。

2. 辞令交付（委員委嘱）

委員の変更がございましたので、委嘱状の交付をさせていただきます。（4名）

3. 教育長あいさつ

今新たに委員になられた方に辞令を交付させていただきましたが、よろしくお願ひいたします。子ども・子育て会議ですが2年前から第3期子ども・子育て支援事業計画策定に向けてご尽力いただいたところでもあります。現在の計画は今年度の4月以降実施をしているわけですが、その内容が充実し着実に推進し、子ども達と保護者をしっかり支援していく状況にしていきたいと考えていますのでよろしくお願ひいたします。皆さんも名前を聞いたことがあると思いますが、「こども誰でも通園制度」については来年度（令和8年度）以降全国的に実施する制度となりますが、本市においては早めに実行することによって来年度の本格実施が円滑にできるようにと4月から準備を進め、もうすでに申請・審査・あずかりを行っております。実施することによって来年の本格実施に向けた理解が進むものと思っております。こども基本法に基づく「こども計画」について話題提供させていただきます。これについては今年度（令和7年度）の市政執行方針・教育行政執行方針において、「こども真ん中社会づくり」をしていこうということを進めているわけですが、具体的な中身について「(仮称) こども計画」を今年度の秋以降具体的に着手しながら策定していこうと考えております。この計画はこれまでの個別計画と違いまして、具体的に少子化対策を含めた計画でございます。特色としてはこども達の意見を計画に反映させることによって地域ぐるみで子ども・子育て支援をしっかりと行っていく。行政だけでなく民間と地域も含め連携を深めて行っていく。その結果として安全・安心な子育て環境ができあがってくる。もう一つは、子どもたちに地域の方々に関わっていただくことによって、こども達が地域を愛し、誇りが持てるような教育的な側面を期待しているところです。総合的なこども真ん中社会について皆さんとともに考えていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

4. 会長あいさつ

皆さんこんばんは。今年度第1回目の会議を開催するにあたり、悪天候のなか、また夜分ご出席いただきありがとうございます。今回4名の方が新たに委員に委嘱されました。どうぞよろしくお願ひいたします。先ほど教育長さんからお話にもありましたが、協議事項が3件あります。特にこども誰でも通園制度…今年度から本市でも取り組むということで、これから制度の運用が本格化していくのだろうと思います。本日の会議、どうぞよろしくお願ひいたします。

※近内教育長、他の公務のため退出

5. 報告事項（報告事項からは青木会長進行）

（1）富良野市子ども・子育て会議委員の変更について

4名の委員の方が変更になっております。

①虹いろ保育所父母の会会長	吉岡あかね	様
②山部保育所父母の会会長	杉村賢史	様
③富良野市校長会 富良野東小学校校長	早坂昌俊	様
④富良野市PTA連合会監事	藤浪則文	様

…以上4名の委員が変更となっております。

（2）富良野市第3期子ども・子育て支援事業計画策定経過報告

本日、配布いたしました「富良野市第3期子ども・子育て支援事業計画策定経過報告」の資料を使って説明させていただきます。

2023年度（令和5年度）にアンケートの実施を行ったところです。2Pをお開きください。

→内容説明

▶ニーズ調査の結果概要については、3P～9Pに記載しておりますので、後ほどご覧ください。また、市HPの令和6年度第1回富良野市子ども・子育て会議（令和6年7月9日開催）の「審議会等の開催予定及び結果」資料として詳細に掲載されておりますので、ご覧いただきたいと思っております。

▶1Pに戻ります。2024年度（令和6年度）は、前年度のアンケート調査を経て事業計画の策定作業を行ったところです。7月～3月の間に子ども・子育て会議を5回、事業計画に係る部署の課長・係長職に集まっておいただき、庁内関係者会議（連携会議）を2回開催したところです。会議の内容については、記載のとおりです。

第3期子ども・子育て支援事業計画の内容については、事前に委員の皆さんに送付させていただきました「概要版」をご覧くださいと思います。以上です。

※委員から質疑等なし

（3）乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）について

事前に配布しておりますチラシをご覧ください。

全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、保護者の多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化するため創設された新たな通園制度です。家庭にいただけでは得られない様々な経験を通じて、こどもが成長していくように、こどもの育ちを応援することを目的としています。

保護者にとっては、地域の様々な社会的資源（子育て支援等）につながる契機となり、これにより様々な情報や人とのつながりが広がり、保護者が子育てにおいてこうした社会的資源を活用しやすくなります。専門的な知識や技術を持つ人と関わることにより、ほっとできたり、孤立感、不安感等の解消につながったりするとともに、月に一定時間でも、こどもと離れ時間を過ごすことで、育児に関する負担感の軽減につながります。

▶チラシを使用し内容説明

令和7年度に制度化され、地域子ども・子育て支援事業として実施されます。令和8年度は新たな給付制度（就学前の教育・保育（幼稚園・保育所）の給付制度と同様）として全国

展開が図られます。今年度は子育て支援センターを実施施設として7月から事業を開始しました。利用に際しては、乳児等通園支援事業総合支援システム（全国ネット）を通しての利用となります。令和7度は、富良野市民対象ですが、来年度以降、全国的な利用が可能となる予定です。

事務局（西出課長）から補足説明

富良野市では少し前倒しでこの制度を始めました。富良野市の保健センター1階に子育て支援センターという所がありまして、ここは就園していないお子さんが親子さんと一緒に遊んでいただく施設なのですが、保育士資格を持っている職員が常駐しており、お子さんとどう遊ぶか、お母さん方の育児相談などを行っています。利用されたことのないお母さん方がいることは承知していますが、保健センターで行われている乳児健診、7か月の健診、1歳半健診時に利用しませんかと声かけをしています。遊びに来る所なのですが、気晴らしになるそして同じような年齢のよそのお子さんの発達を親御さんが見る、子ども同士で手を出し合ったりおもちゃをとりあったりしてるような場面もあり、良い事業だと思っています。その場所で保育の認定を受けていない家でみているお子さん達を1時間単位で預かろうという制度です。富良野市でも7月から始めました。PRとしては健診時にここの制度ができました利用しませんか登録しませんか…と職員が声をかけまして、実際申込書をいただきアカウントを発行し、メールでやりとりを行います。実際にどのくらいの利用があるかということはいずれにしても、7月から始めまして、すでに4、5名から申し込みがあり2時間お子さんを預かって間にお母さんは用事をすませたり、リフレッシュをすることをしています。保育所ではないですが、どんな理由でもこの制度は使えるというのが利点ですし、こども側からみても親からみても良いことがあるだろうと進めている制度です。保育所という場所で事業を行っていませんので、給食の提供はありませんし、ミルクの調乳などもしないので、どうしてもお腹がすくというお子さんは初めからミルクを用意してもらっています。子育て支援センターでは、午前2時間午後2時間を一つの区切りとして預かりを始めました。これから事務的な手続き、ニーズ、保育の中身など課題が色々出てきますので、実際携わっている職員で点検しながら良い事業にしていきたいと思っています。次年度以降については、市内の保育所などでどのように進められるかというところを事業所の皆さんと相談しながら良いものにしていきたいと思っています。

こども誰でも通園制度を富良野市全体で行えるかを考えていきたいと思っています。地域でくらししているお子さんたちがなるべく広く公平に利用できる体制づくりが必要と考えています。特定の子ども達だけにサービスが行き渡るのではなく、広く公平にいきわたるような制度になれば良いなと思っています。委員のみなさんも機会がありましたら、子育て支援センターを見ていただきたいと思っています。事業内容の進捗状況については、適宜本会議で報告させていただきます。以上です。

※委員から質疑等なし

6. 協議事項

（1）第2期子ども子育て支援事業計画の進捗状況等について

「富良野市第2期子ども・子育て支援事業計画」には、①就学前の教育（幼稚園）・保育（保育所）量の見込みと確保方法及び地域子ども・子育て支援事業に係る狭い意味での①子ども・子育て支援事業計画、②次世代育成支援地域行動計画、③富良野市母子保健計画 ④読書プランを 包括している計画になります。（第3期事業計画概要版2P 下参照▶図書館

プランは3期事業計画では連携・整合に位置づけ)

まずは、①就学前の教育・保育の確保方法及び地域子ども・子育て支援事業に係る①第2期子ども・子育て支援事業計画に関しての進捗状況について説明をさせていただきます。

本日配付した資料1をご覧ください。

▶別紙資料1を使用して説明を行なう。

▶別紙資料2を使用して説明を行なう R6年度事業で特筆すべき事業を説明

(1) 第2期子ども子育て支援事業計画の進捗状況等について

本日A3の資料(第2期子ども・子育て支援事業計画進捗状況)を配布させていただいております。

見出しとして 基本理念、子育て支援への10の視点、3つの重点施策、4つの基本方針、18の方向性、主な取り組み、具体的な施策、担当課、進捗状況を記載してありますが、令和6年度の取組(事業が従前より進んだ)ものを中心に説明をさせていただきます。

見出しの18の方向性の

●1-1 母子の健康確保・増進

①母子モの利用者について 母子モ保護者482名・子供512名の登録(2025/3) R6新たな登録43名。登録しつ放しの利用者あり

●産後ケア事業

出産後の母親は、身体の回復やホルモンバランスの変化、慣れない育児などで心身ともに大きな負担を抱えます。産後ケアは母親と赤ちゃんが安心して過ごせるように専門家によるサポートを提供する仕組みです。

令和4年12月から協会病院で開始…宿泊型・日帰り型・訪問型を開始

年々利用者が増加傾向にある R4:短期入所1件、R5:短期入所9件・通所12件、R6:短期入所8件、通所44件、訪問15件

●今後の検討課題②こども家庭センター施設整備については、令和6年度開所

▶妊産婦・子育て世帯、こどもに対して切れ目のない包括的な支援を提供するために設置された福祉拠点、2024年(令和6年)児童福祉法の改正に基づいて全国の市町村で整備が進められています。(母子保健と児童福祉の統合)

●1-2 食育の推進

①物価高騰対策緊急学校給食費助成金(2カ月給食費助成)

●1-4 相談機能・情報提供の強化

①新米ママ交流会→事業内容の検討 R7から産前・産後サポート事業に変更

①今後の検討課題で子育て支援センターの運営方法の検討

▶利用者の要望としては、いつ来ても利用できるようにして欲しいという要望あり

⇒R6 ひよっこ(登録制1歳まで)月2回 月火水金曜日午前自由開放へ

複合庁舎のキッズランドがR4.10オープンしたことから月2回の土曜開放は取りやめへ

午後(13:30~16:00)月火水金:子育てサロン(登録なしで利用)

木曜日午前は月3回アリーナで遊ぼうを開催(スポーツセンターのサブアリーナ)

②こども家庭センター施設整備▶令和6年度開所

●2-1 幼児期の教育・保育の充実

①へき地保育所のあり方検討(東山・あおぞら)

▶あおぞら保育所はR7入所児童がいないことから運営を休止。あり方を地域と協議。東

山保育所は、R7 年度に樹海義務教育学校内に新築。R8 年度オープン予定

● 2-2 子育て支援の充実

- ・物価高騰重点支援給付事業給付金 5 万円（低所得子育て支援加算）国の事業
- ・出産・子育て応援給付金 10 万円（出産前後に 5 万円ずつ給付）
⇒R7 妊婦のための支給給付として制度化へ
- ・乳児子育て世帯応援ギフト（市内共通商品券 5 万円）→市独自
- ・出産記念品として、写真を贈呈している

● 2-3 発達に遅れのある子どもへの支援

今後の課題でこども家庭センター施設整備と併せて老朽化したこども通園センターを保健センター 2F へ移設（令和 6 年度）

● 2-4 社会的支援を要する子どもへの対応（ひとり親）

- ・2-2 子育て支援の内容の再掲
- ・今後の課題で、こども家庭センター R6 開設

● 3-3 多様な子どもの居場所づくりの検討（課題）

→今後こども計画策定時に検討

● 3-5 子どもの権利を守るための推進

今後の検討課題 こども家庭センター開設：R 6 開設

● 4-4 子育てに配慮した居場所環境の整備

遊具新設（更新）5 公園（住吉公園、北の峰南公園、鳥沼公園、南町幼児公園、新富公園）

令和 4 年 10 月にオープンした市庁舎内のへそキッズランドについては、年年利用者が増加傾向。特に富良野及び沿線町村以外の利用者が伸びています。観光等で富良野を訪れた親子の利用が増えています。外国人親子の利用や父親と子どもの利用も見かけます。

※その他事業については、前年度（R5 年度）を踏襲しつつ、同様に事業推進を行ったところであります。

□質疑応答

西尾委員～協議事項の中で、第 2 期事業計画の進捗状況について説明をいただきましたが、第 3 期事業計画がすでに始まっている状況で、第 2 期 5 年間の事業報告をもって何かこの場で協議することはありますか？

事務局～報告事項にするか協議事項にするか迷いました。2 期計画の進捗状況をベースに 3 期計画の策定をしたのは委員ご指摘のとおりです。策定段階では令和 6 年度の事業が終了していない部分があったので、そのことも含めて 2 期計画 5 年間の振り返りとして協議事項とさせていただきます。令和 6 年度の実績を委員の皆さんにお知らせすることを主な目的として協議事項にあげさせていただきます。2 期計画での課題解決については、第 3 期計画の中で対応していくことになります。

出合委員～支援センターの運営内容で、以前は午前中に登録制のふれあい広場が開設されていたが、現在は自由開放となっている。登録制の時は、同じメンバーが登録日にきていたので仲間づくりがしやすかったが、現在は自由に利用できることから親しくなることが難しい面がある。今回 1 歳半健診で発達に少し気なることがあったので、遊びの教室へ参加しました。3 か月間同じ曜日で子育て支援センターの開放日に合わせて利用しました。毎週同じ参加者なので知り合いができたという安心感がありました。そのへんの所の対応について教えて欲しい。

事務局～登録制にしないことで親御さんが同じ日に来ないので、深く知り合う機会ができないことがデメリットであることは課題として感じている。転勤して来ている方も含めて親御さん同士のつながりをどうつくるかは、スタッフの運営の工夫が必要と考えている。意図的

に親御さんのグループをつくるようなことが必要だと感じている。何か同じような作業をして少し交流を深めてもらうとか運営の仕方を工夫して、委員ご指摘の課題について対応していきたいと思っています。遊びの教室は発達に課題がある可能性があり、親御さんの育児に少し心配がある方のグループ活動が支援センターの中で行われています。プロのアドバイスをいただくことで育児の不安が少しでも減るといいといいな、自分のお子さんの見目が少しでもやわらぐといいなと思っています。参加されるおかあさん方の意見をたくさん聞きながら運営方法の検討をしていきたいと思っています。

（２）乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）の量の見込みと確保方法について

➡資料３ 週の時間数の根拠を説明

報告事項でもお話させていただきましたが、先月 7 月から保健センター内にある子育て支援センターで「こども誰でも通園制度」をスタートさせました。量の見込みと確保方法ですが、1 週間の利用時間をベースに記載してあります。1 週間に 4 日、午前 2 時間午後 2 時間の預かり時間の設定で、各 2 人の定員となっています。次年度 2026（令和 8 年度）は、7 年度の倍の時間数、2027 年（令和 9 年）年度以降は、3 倍の時間数としています。2026（令和 8）年度以降は、今年度の利用状況や保育施設等の動向（R8 年度以降本事業を取組むかどうか？）をみながら利用見込・確保時間を精査していこうと考えています。現段階での仮の数字を記載しているのご理解いただければと思います。今年度中の会議で再度、次年度以降の利用時間・確保方法について協議をさせていただきたいと思っています。

※委員から質疑等なし

（３）富良野市こども計画（仮称）の策定について

➡別紙資料

「富良野市こども計画（仮称）策定方針（抜粋）～こども」まんなか ふらの～」を用いて説明

□質疑応答

青木委員～委員のメンバー構成がかなり変わりますね

事務局～計画の中身がかなり広く、対象者の年齢層も幅広いので、多様なメンバー構成になると思います。

出合委員～これまでの子ども・子育て会議の中ではこどもに係る人の範囲が狭いような感じをもっていましたが、これから策定する（仮称）こども計画は地域の人も含めた多くの方が関わることになると思いますが、見直しのメンバーの中に保育・教育施設等を利用している人が記載されておられません。従来どおり利用者はメンバーに入ると理解してよろしいでしょうか。

事務局～具体的なメンバーについては検討中です。ご意見として承ります。

出合委員～資料の中で条例の改正（案）の中にはこども・若者という言葉はありませんが、メンバーの見直しの中には「こども、若者」が入っています。こども、若者を委員に入れる考えなのでしょうか。

事務局～こども、若者の団体とか高校生を委員に入れて議論をしていきたいと思っています。そのことも含めて事務局で検討しています。保護者や教育・保育施設の利用者等に係るメンバー構成についても検討中です。公募委員としての参加も可能と考えています。

藤浪委員～資料 5P 現下段に対象者として 18～39 歳までの若者となっているが、アンケートをしてもこの層の回収率はかなり低いと思う。個人宛にアンケート調査用紙を送付するの

ではなく、働いている企業等を通してアンケート調査を行うと回答率が上がると思います。**事務局**～アンケートもまだまだ準備段階ですが、一方的に投げかけるよりは、何らかの団体だとか企業だとか、こちらが聞きたい対象に足を運んで実際聴き取りを行うと、実際子育てが終わった方や未だ子育てを行ったことのない方からも様々な意見が伺える機会になると思っています。様々な視点からの意見を聴くことができると思っています。

青木委員～アンケートの聴取方法の検討も必要だと思います。最近では視覚に訴えるような調査が多いように思います。

西尾委員～確認ですが、これから（仮称）こども計画を策定することになると思いますが、今後子ども・子育て支援事業計画は内包していくという形になるのでしょうか。

事務局～第3期の子ども・子育て支援事業計画の終期が令和11年度までということなので、今回考えているこども計画も令和9年度～11年度の3年間の計画として終期を合せています。本来であればこども計画も5年スパンの計画でないと中長期的な施策ができないと考えています。二つ計画があると二つアンケートをとらなくてはいけないこととか作業も複雑化してきますので内包した計画として、次の計画から完全一体型の計画を考えています。これからの議論次第で第3期子ども・子育て支援事業計画がこども計画中でどのように掲載されるかは流動的だが、内包するイメージで進めていきたいと思っています。

早坂委員～新任の委員で、初めて子ども・子育て支援事業計画をみたので、これから勉強していきたいと思っています。

山崎委員～これから子育て施策が大きく変わっていくという印象を受けました。実際子育てをしている方はもちろん、仕事で係っている方など幅広く様々な方から子育てに係る意見を聴いて、それをどう具体的な形にするのかを考えていかなければならないと思いました。

杉村委員～子育て支援に係る様々なことを勉強させていただければと思っています。自分は保育所から高校まで通った学校が全部（閉校）なくなりました。自分の経験したことが、何かの役にたてることがあれば発言させていただこうと思っていますので、よろしく願いいたします。

吉岡委員～本日の資料を見ていて、知らないことや助成制度があり、ありがたいなと思いました。こどもが小学生と保育所に通っているので、子育てを実際おこなっている立場としての思いを発言させていただきたいと思っています。

佐藤部長～本年度市政執行方針及び教育行政執行方針の中でこども真ん中社会の実現を目指すために、こども計画を策定すると言っています。そのために市長部局と教育委員会が連携して行うということで、幅広い関係課（部署）が関係しており全庁的な取り組みになると考えています。子ども・子育ての施策を全庁的に行うように変わっていきますし、それぞれの職員の経験も盛り込みながら、何かしら子ども達が幸せを感じられるような社会になっていけば良いと思います。

7. その他

先に、「子育てガイドブック」・「ふらの子育て支援 INDEX」及び「第3期子ども・子育て支援事業計画（概要版）」を配布させていただいております。子育て支援に係る参考資料としてご利用いただければありがたいです。

次回の会議は10月中の開催を予定しておりますが、時期になりましたら改めて委員の皆さんにご案内いたします。（仮称）こども計画のアンケート調査及び（仮称）こどもワークショップの内容を協議したいと考えております。

8. 閉会

(20:15)